

辰巳之圖

分六寸三	コ	ヨ	紙	表
分二寸五	テ	ク		
分二寸三	コ	ヨ	粹	文
分四寸四	テ	ク	本	

辰巳之園叙

京都辰巳鹿社住。江戸辰巳有極樂。夫者宇治山。是者深川。富賀岡之邊遊情婦之鄉也。勤悉々書集吉原北國之名有學之辰巳之園。題書肆何某任望。北國之美君。嚙不顧。如井之內蛙。吉原雀。閉翬。深川參人述之。

明和七庚寅林鐘撰之

櫓閑街

林鐘



自序

富賀岡八幡宮は。鎌倉鶴ヶ岡を移し奉り。貴賤老若の信々日々に彌まし四季折々の賑か。二軒茶屋其外楊枝見せ霞笛茶屋とうの。美婦は紅粉を粧ひ。品形の美きを見れば。樂は外にあらじとおぼゆる。さるにより此土地に樂遊民は。北國の面白きを知らず。美國の吉原くらふれば。九牛が一毛とやいわむ。去ながら。餅好酒の醉事を。そねみ。酒好は餅の。風味を惡む。吉原の位あつて靜也ル遊びお。知らずして。此所の素人らしき。娘風を悦び。又此土地の。わつさりとしたる樂を。吉原好は知らずと。深川好北國をにくむ。吉原客は深川は下卑なりと笑。いかであらそふ時は水掛論とやいわむ。吉原に昼三あれば。仲丁土橋あり。打附有は櫓下。佃鯨あり。壹貳人六寸に。新地入船石場三間堂を譬て。爰に樂む。姉女郎あれば。年廻有。禿有は小女子と云あり。花車有は。送迎男あり。牽頭持藝者ト云。淺草觀音にくらぶれば。八幡大菩薩を信ずる。聖天は則。永代寺の寺中に有。九郎助稻荷に。仲丁のいなりを譬。松田稻荷は。黒江丁のいなりをいわん。又朝日如來には。永代寺の本尊を。なぞらゑん。大雲寺前あれば。永代寺門前有。大門あれば。大鳥居有。土手あれば。永代橋有。衣紋坂

大坂枕に
樂の夢は
廬生が五
拾年の夢
とやいわ
む

自弓菴
祇桑

邯鄲と
同じ枕や
花の夢

大坂枕に樂の夢は
廬生が五拾年の
夢とやいわむ

邯鄲と

は

枕や

花の夢



自弓菴
祇桑

春風は、花のあたりを。除て吹。心づかしや。うつろふと見む。上野飛鳥の花盛り。日暮里の風景。所々賑なる折から。如月半の頃茅場丁。薬師如來の参詣。おびたゞしき群集の中に。藝者八丈の羽織に。黒緞の小袖。八丈代り緞の下着八反掛の。立横緞の帶。鼻紙袋。小菊三ツ折。丸角やが骨折の。利久形。髪は本多にあらず。茶洗坊にあらず。出す入らずの。男女好と結。雪駄は鼠矮の下り皮。細身の脇指をさして。伊勢やが床机に。腰を懸る。伊勢や志厚さん。きついお見限りで。ござりやす。志厚此間は石燕が花の會に屋鋪に鞠がありやして。散々にわか氣づめてぶら／＼心。是ではいかんと。親玉隠れちよんの間と。出かけやした。女房それはきつい御心勞。今日もおさへかへ。志厚久しぶりだに。鳥渡參ろふかと思ひやす。女房おはやう。御歸り

なさりやせ。暗しの髪を。大本多に結。飛八丈の。小袖の少しよごれたるに。黒緞子の袖口に。幅せまの帶に小短小を。落指にさして。山岡頭巾を。横丁にかむり。日和下駄をはき。大きな顔にて來る。志厚かみさん見ねえ妻ひ男だ。女房まだぬしを。知りなんせんか。如雷様とか云て。てエ／＼やかましのしや。ござりやせん。方角御國衆とみへて。花色小袖に。淺黄裏を付。洗ひはげたる。黄むくの下着。黒紗綾の帶に。郡内緞の袷羽織に。海黄の裏を附。袖頭巾を。ひら／＼とかむり。尻をちん／＼ばしよりにして。き木綿の足袋に。わら草履をはき大小を門指にさして。もへ黄羅紗の。柄袋を掛け。楊枝屋の娘の美に。氣をとられ。傘の澤山なるに。きやうをさまし。猪牙船の早きにおどろき。金魚の數に。あきれ。植木の青／＼としたるに。目を

覺し。楊弓の。カッチリちりりん。胸をびくつかせ。からくりの太鞍に。きをぬかれて。大きな鼻紙袋の。落をふなも知らず。うか／＼と。來掛り。如雷が顔を見ると。きよろ／＼顔にて。袖頭巾。貴公にわ。いづかたへお越なさる。如雷こりやアめづらしいぬしやア。獨りか。新五左衛門イヤ下拙も。はつの出府ゆへ。方角もぞんせす。薬師とやらが。今日は賑じやと。福才老のすすめにまかせ。賑な町を。通りぬけて。漸／＼尋て。參りました。如雷そんな事なら。連立て。來よふものを。どふだ。此賑事は。おそろか。新五左衛門いやはや。とつびやうしもねえ。こんだアむし。如雷主は。なんと深川え。いくきはなし。か。新五左衛門どこへなりと。行ますべし。如雷そんならもつと。身重をして來やうものを。イ、知たやつらに逢たら。ばい隠れの。すいにげにし

やう。ちつと用もあれど。用事流しの。ちよんの間遊びと出やう。船に乗ふか。日本橋へは遠し。江戸橋の田村やにしようか。但し西村のおさが所て乗ふか。いや／＼。此間大和やの息子と乗た。渡し場の中村屋にしよう。新さんこつちへ。きなこ餅／＼。〔新五左衛門〕 そつちへ行のかへ。〔是は如雷新五左衛門を連れて釣の渡し村にて。〕
〔次郎 船か／＼。〕 〔如雷 〕 なんの事だ。船か／＼と他人がましくするな。次郎ついで來ぬ客なれ／＼しくする。是はおを。上手ものなればなじみ顔に。見違ふしました。おつやどんお茶を上げエ。〔長吉 〕 そんならおれはいつて來よふ。イヤ稲荷堀は何番が出たな。〔次郎 七百廿一とでた。〕 〔長吉 〕 なむさん。薬師のかきを喰。此頃は七百六百か。いゝわへ。〔次郎 〕 今日はどこへ行。〔長吉 〕 九十九里の。旅のしまいが有。〔次郎 〕 早くしまふたら。めくうやうとふ。〔長吉 〕

後／＼。〔如雷 〕 あいつはどこの船印じや。〔次郎 〕 横丁の。西村におりやす。〔如雷 〕 西村の船頭か。あいとも見わすれたぞ。〔ふな 〕 きつく年寄になつたぞふな。〔女茶を持て 〕 〔如雷 〕 イヤ 美しくなつた。久しく見ぬが。とんだ茶がまに成おつた。どふだ地色でも出来たか。知らぬ客ゆへ氣味へ行ば。引。〔女房 〕 やう御出遊しました。〔替女房出る 〕 先御上り遊しませ。次郎どん。船を。はやく拵さつしやい。〔如雷 〕 ばこ吞付る。女お火がござりますかな。〔如雷 〕 ありやす／＼。〔次郎 〕 かみさん。仲丁の龜山へ。急がありやせう。〔女房 〕 今見てやろふ。船をはやく拵な。〔船頭 〕 女。火燭箱など手に持て。くわへさせるにて船場の方へ行。〔女房 〕 是次郎どん。くわへさせるはあぶないによ。〔次郎 〕 アイ。女房此間にて。駄指を奪る。〔如雷 〕 手拭。〔如雷 〕 新五左。かならず。つきな事を云まいぞ。〔新五左衛門 〕 何

サ。おれらも。いなかじや。お女郎買だ。今度も。輕井澤であそんだら峠まで。おくつてなむし。お歸りにやア。かならず。よらしやりませと。くれが云て。大もてで有た。〔如雷 〕 なんの事だ。人が聞。そんな事は御免だ／＼。〔次郎 〕 船が出来やした。〔女房 〕 勝手。ふねか出来ました。お出遊しますか。〔如雷 〕 さあ新さんめエリ。やせう。イヤかみさん女に。西宮が所の。長唄を。買にやつて。くんねア。〔女房 〕 ハイ。つや新六さんの所へいつて。めりやすを。買ふてきや。〔如雷 〕 錢を出し。はやくかつて來。くれ木川岸／＼。〔つやはめり買にや。女房先に立て。如雷新五左衛門船へ行。〕 〔次郎 〕 さアめしませ。〔如雷 〕 船へ。新さん乗やすぞ。〔新五左衛門 〕 猪牙は初而乗は。やうア。こりやア。ぶ細工なもんだ。〔如雷 〕 ころびでもせまひぞ。獨りでころんでぬれ

るやつと。出まひぞ。天郎 うそわねえ
 もしかみさん。船繩を^{しなひ}とひておくんな
 せんせ。女房 先ちつと待な。めりやすが
 くる。<sup>下つたや、めりやすを買
 いそれとそふかて来る</sup>玄 朧月と。
 五色丹前を。買つて参りやした。如雷 ヲ、
 きまり。すひめ。重さんどうでも。は
 だしじや／＼。女房 <sup>船のへ先を
 持て押出す</sup> お歸り
 に。おより遊せ。如雷 アイいつて。め
 りやせう。女房 イヤ次郎どん。白木やの
 清助さんの。ぬを。天郎 夫／＼。そつか
 らなげて。おくんなんし。女房 そんな
 ら。なげるによ。そりや。天郎 おつと
 來やした。^{文はふとこ出る}天郎 とりか
 ち／＼。やんわりと／＼。エ、べらばう。
 跡先。見てこげ。如雷 新ぼう。此新川筋
 の。藏どもを。見やれ。是が皆。酒だ
 によ。新五左衛門 大けなもののじや。如雷
 是より又油堀の。孫兵衛が。貸藏か。
 見せたい。新五左衛門 孫兵衛とは。如雷

次郎 稻葉や。おなじみなら。先へお出
なんし。〔如留〕さ新さん。あかぬえエ。

新五左衛門 早いもんだ。夢のやうに。き
た。〔如留〕そんなら。先へ行ぞ。新さん。
こつちへきねエ。〔如留と新五左衛門。新道が
小花やへ行。又猪牙来り。
川岸へヤドク。〕

忠五 龜山へ。エ、ふ景氣な。
龜山へ。やうく。龜山に
て聞付て。女来る。〔玄〕忠五どん

御苦勞。蝶卿さん。お出なんした。〔蝶卿
此間は御世話。〕御影で。おもしろ

ふ。芝居を。見やした。〔蝶卿〕これは。

御禮で伊丹。諸白。〔蝶卿は女と建立て。龜
山へ行。忠五船をしま
て。〕

忠五 是へ。次郎そしらぬ。顔をす
るな。〔次郎〕どふだ。忠五久しいの。い

ゝ事でもあるか。〔忠五〕とんと。いけね

エ。ゆふべも。屋形に。能のが有から

いたりや。手ふりあみ笠に。なつた。

次郎 おいらも。裾つきの丁子やで。め

くりを打て。六七百まで。夫からお

もての。春岡で。こまか有から。廻し

たら半分斗。まけはかへつた。〔忠五〕そ

りやア。まづよかつた。なんとそつち

の吉は。どこにいるの。〔次郎〕此間聞ば。

のぶと船を。乗ると。聞たが。ついぞ。

見掛ねエ。〔忠五〕あいつも。いけねエ。

唐茄子だよ。〔次郎〕とうなすだか。茶が
まだか。わからねエやろうだよ。客が。
まつていやう。後に來やれ。〔忠五〕どの

やうな。客じや。〔次郎〕何だか。雨落の。

きしやご。見たやうに。しやれのめす

よ。〔忠五〕そんなやつも。苦界三年と。附

合て。勤たが。い。う。〔次郎〕のちにへ。

次郎は新道な。小花やへ
行。忠五は船をしま。〔小花座
帳お中〕どふだ。次郎

どん。きついのだねエ。前の。お松

どんが。居ねエけりや。龜山へ斗。い

きなさるな。〔次郎〕こりやア。めいわく

客衆さへ。來やうと云ば。いつでも參

りやす。〔お中〕うそつきねエ。奥の内に。

お中さん。志厚さんの。鳥渡さねエと。

お中 横座鋪でか。〔お中は座鋪へ行。次郎も勝手
の火にまたがつてあたる。料
理番も。客大勢ゆへ。〕料理番 八助どん。水を。

頼やすぞ。〔八助〕アイ。水汲も。てエへ

ではねエ。〔料理番〕おまつどん。祝蓋。持

て行ねエ。奥へまだ吸物が。でるによ。

客四五人来る。お中さん。お松どん。お客
があるに。〔玄〕是は。五郎兵衛さん。よ

うお出なんした。〔五郎兵衛〕けふは御屋鋪
から。御出遊した。随分鹿末の。ない

やうに。〔玄〕あいへ。さあ。こつちへ。

御出なんし。〔五郎兵衛〕旦那。お上り遊

せ。〔客はのこらず。奥座敷へ行。〕客の風味は。御大名の。

勝手用人とも。云かつこふにて。お納

戸茶。羽二重の。小袖に。淺黄。むく

の下着。茶色の帶。立派なる。大小に

て。京扇子を。ばちさせ。髪を合せび

んにて。元結を。四角に巻。宗十郎頭

巾を持来る。跡につゞいて。貳人来る。

是は勝手用人の。下役手代と。云なり

の男ぶりにて。郡内編しほの。綿入羽織わたいれに。
小紋ちぢまの秩父絹ちぢまの小袖ひそ。獨りひとりは。太織たおりの
羽織はおりに。上田編うへだの小袖ひそ。はるか跡あと。
棧留せきりゅうの布子のぶこに。小伯編せうはくの帶おび。手に海黃
縞うみぎぬの。風呂敷ふろしきを持。勝手に。居やうと。
するを。密ひそこれ。長助ちやうすけ。酒でもの
みやれ。長助ちやうすけ。ハイ。跡あとについて行。是は勝手用人
の。小使せうし。手附中間てづけちゆうかんなるべし。
五人ながら。座鋪ざしきへ行。密ひそさあ。みん
な平へいに。四人よにん。ハイ。此間こゝに。たばこ
は。是。屋敷やしきはやしき。爰こゝはこ
じや。平へいにし給へ。四人よにん。ハイ。女鉢めはち看みた出
し持来もちきた。五郎兵衛ごろうべゑ。旦那だんな。壹いちッ召上めしあげられませ
ふ。密ひそ。しからば。初はつて。一ツ盃みづのみて。次
の男へ。傳六殿でん。お先さきへ。酒を存所をんじよへ。五
郎兵衛ごろうべゑさん。お百ひゃくさんは。さして居な
さり。やせん。五郎兵衛ごろうべゑア、たれこれ
ねエ。美しいのを。揃そろてたのみやす。
密ひそ。是は。ざんねんぴんしけん。五郎

兵へいがお馴染なれを。見やうと思ふたら。
五郎兵衛ごろうべゑ。又旦那だんな。惡口斗わるくちう。吸物出しやくぶつで。女郎ぢやうらうあ
げ。小女郎せうぢやうらう。お中さん。お中おちゆう。サアさねエ。女郎ぢやうらう
來りて並ならび。客きやく一盃いちはい吞のて女に渡す。女盃ぢやうはいを上座じやうざの女
郎ぢやうらうに渡す。女郎ぢやうらう盃はいを横よこにまげて。ちつと斗吞とちゆうて女に
渡す。女は次の男へ盃はいを持行。次の男吞のて小簾せうれんにな
りて。三人目さんにんめといふて女に渡す。女三人目さんにんめへ持
行。女郎吞のて女に渡す。又女三人目の男に盃はい渡す。
三人目の男吞のて女に渡す。又女二人目の女郎に盃はい渡す。
密ひそ。是は。さしづめ四人目の新造しんぞうへきまる。五郎兵
衛ごろうべゑ。どこへなと。いつて樂たのめ。長助ちやうすけ
。長助ちやうすけ。イエ御酒ごしゆ戴たいだて。やうござります。
五郎兵衛ごろうべゑ。西宮さいみやの船頭ふねがしらと。堂前どうぜんの。あぶら
やへい。かんせ。長助ちやうすけ。イエモ。密ひそ。いけ。五郎兵衛ごろうべゑ
。サア。無理に長介ちやうけいをひつたて。船頭ふねがしら
と。一ツ所に。堂前どうぜんへやる。五郎兵衛ごろうべゑ。賑にぎに藝者げいしやを。呼よませう。是は
まつどん。たれぞ頼たのやす。密ひそ。羽織はおりに。し
やせうか。男藝者おとこげいしやに。しやせうか。五郎兵衛ごろうべゑ
。梅太夫うめたふが。よかろふ。お中おちゆう。おまつ
どん。梅太夫うめたふさん。聞きにやりねエ。
密ひそ。アイ。女は梅太夫うめたふ呼よびに行。跡あとは女郎ぢやうらうと客別きやくべつに
なり。座も少ししらけて居る所へ。梅太

夫つま。梅太夫うめたふ。是は。五郎兵衛ごろうべゑさん。お久し
ぶり。五郎兵衛ごろうべゑ。間違まちがひ。久しうお出會であひ。
致いたぬ。山やまののんだ。ま。かな。梅太夫うめたふ。左
様さやう。宮本みやもといらいで。ござります。密ひそ。
かづのため。さそう。梅太夫うめたふ。是は。あ
りがたふ。ぞんじます。五郎兵衛ごろうべゑ。なんぞ。
面白おもしろひものを。頼たのやす。梅太夫うめたふ。風流ふうりゆうの。
馬士ばしぶしを。お聞きなされましたか。
五郎兵衛ごろうべゑ。よかろふ。梅太夫うめたふ。豐丸とよ丸さん
調子てうしを。合せねエ。密ひそ。よし。梅太夫うめたふ。
座頭ざとう豐丸とよ丸三線さんせんをかゝる。梅太夫うめたふ。
たいわ知らず。儀太夫ぎたふは。しらぬわれ
らが。ふつ。かに。唄うたは元もとより。しら
糸いとの。難波なにわの。お中おちゆう。五郎兵衛ごろうべゑさんへ。
梅太夫うめたふさんに。此間こゝはやる。おいらを
狐きつねが。はらませたと云。唄うたを。あて身
ふりを。させなせ。五郎兵衛ごろうべゑ。梅さん
。狐きつねかはらませたに。しなさい。
梅太夫うめたふ。ハイ。こいつは。ちとつらいねエ。

〔客〕しよう／＼。梅太夫せひなく。狐きつね 梅太夫うめだうふ 豊丸とよまるさん。うたいねえ。ッ、タン／＼。△お

いらを狐が。はらませて。御亭ごていになろとは。わしや。やです。やです／＼。

やでもです。しんちつやあでは。なけれど。人目はづかしけりや。わしや

やです。やですと云事は。いわねえも

んです。大勢たいせいハ、ア。〔客〕是は一ツ興／＼。一ツ盃はっぴのみ給へ。梅太夫うめだうふこれは／＼。盃はっぴを

酒をつぐ。おつと。ござんす／＼。〔中〕梅太夫うめだうふさんの。久しい。もんだ。梅太夫うめだうふ

いやもう。とんと。酒が。いけやせん。ゆふべも。二見やで。拳酒けんしゅの。相手あてを

したりや。聲こゑは。大エなしに。なりやした。〔五郎兵衛〕一ツ斗は。よかろふ。

梅太夫うめだうふイエ一ツござります。〔五郎兵衛〕さん。ちとあちらへ。お出なんし。〔五

郎兵衛〕なるほど／＼。旦那ちと。お休遊やすあそびせ。客少しめれんの。ウ先／＼。〔中〕お松梅太夫口揃くちあはれて。ち

とげしなり。ませ。五郎兵衛始客ごろうべいしやくはみ梅太夫さん。つき出しの。子と。一チ

座ざはいたしやせんが。此間このまはら仲川なかつがわで。後しろから。見掛みかけやした。女郎ぢやうらうすかねえ。子

だがねえ。〔中〕まだなれねえからさ。〔女郎〕いけるのじやねえ。梅太夫うめだうふおかん

さんの。くさすも。久しいもんだ。大勢たいせい口をそ。ア、らつちもねえ。みな床とこへ

ろて。小聲こゑ〔客〕此さうら。さつと捨てさそふらへばア、ブワ。女郎ぢやうらう来り。客〔女郎〕もし／＼。

〔客〕ア、きつく酔よふた。女郎ぢやうらうたばこのみて。〔客〕これは／＼。たばこのむ。一チ座ざの。あな

た。御休ごやすみなんし。おかんさん。お休なんし。〔女郎〕アイお休なんし。皆みな床とこへ行

打うまわして。まだ。お寒さむふござりやすねえ。〔客〕されば朝晩あさばんは。はだ寒さむひ。色いろ／＼おもしろ

き仕きざし。隣座となざ鋪ふ。〔如雷〕新ばう面白おもしろいか。〔新五郎〕

〔左衛門〕田舎いなかとはちがつたものだ。な。い。や。ま。半紙はんしを出して鼻はなをかむ。〔如雷〕是／＼。主の紙しはそで

ねえ。小菊こぎくにしねえ。小菊こぎくを買かふなら。馬喰ばくちやう丁の上總かみづみや。五郎兵衛が所が。い

／＼。たばこも。兩に四斤ししやうくらい。國くに分ぶんが。い。／＼。匂におひ袋ふくろの。やうなもの。はな。室町むろまちの。桐山きりやま三了さんりやうが。所からと

りねえ。又またきせる張はせるなら。池いけの端はたより米沢よねざわ丁の村田むらたが。所が。い。主は

誑はなは諸ももすこ。やらかしたな。〔新五左衛門〕國で。ちつと斗たたかして見たが。〔如雷〕そん

なら宗匠そうしやうへ。弟子でし入いをしねえ。存義ぞんぎで

も。金羅きんらでも。祇徳ぎとく在轉ざいてんなりと。湖うみ十

なども。よし。菊堂きくどうなりと。氣きの有あにしねえ。みなおいらが。心安こころやすく。するか

らつ。出来るこつた。朱肉しゆにくや。唐墨からすみの。やうなものは。古梅園こばいえんが。所から。

通とほでとつて。やろう。ろう石いしを。買かな

ら。四日市よひいちより。親父橋おやばしの。彌五郎やごろうが

所で。買ね。筆も思恭か。流なら。
御成小路の。せんちんしと云が。有。
〔新五左衛門〕そんな事より。三味線が。な
らいたいものだ。〔如置〕そりやア。なを
／＼安ひ。こつた。儀太夫三味線なら。
五八でも。富八でも。豊後なら。文字
豊でも。文字久なりと。芳丁の。竹澤
間も。よし。〔新五左衛門〕文字清と。やら
は。どふしたの。〔如置〕何。文字清か。
今では。中村秀松が。女房になつて。
子を持って。かみさんかぶだ。〔新五左衛門〕
どこに居るの。〔如置〕川岸の。富田屋と
云のが。そだ。〔新五左衛門〕役者が。茶や
をするかの。〔如置〕するの段か。高麗藏
が内は。こうらいやとゆふ。芳丁に西
川重三郎と云。人形遣ひ。ぞうしがへ
やと云て有。其外に中村や。嶋五郎。
萬屋新万や。竹伊勢と云は。伊勢太夫
か内じや。鹿の子餅は。又太郎が見世。
向の角の八百屋は。大谷廣右衛門。い

つくらも此類がある。しつちぢまん。色
女郎來。〔お長〕はおとよさん。ゆふべはね
る。〔お豊〕面白かつた。ねえ。〔如置〕どこで。
〔お豊〕梅本でさ。〔如置〕梅本は。こうせい
なもんだ。椿下などは。のこらず。梅
本の地だ。根津にも。店があり。芳町
では。子供屋也。〔お長〕豊國さんの。内
だねえ。〔如置〕豊國を。どふして知つて。
居る。〔お長〕いつぞや。拳角力の時。出
なかつた。ねえ。〔お豊〕それ／＼。梅の
紋を付て。〔如置〕豊國が。拳とては。
凄ひもんだ。〔新五左衛門〕日が暮じやねえ
か。〔お豊〕まだ七ツ過で。ござりやせう。
障子引たて。び。お長さん。お休なんし。
廊下はた。と。〔お長〕お長さん／＼。ちよつと。き
ねえ。〔お長〕何んだ。お長はしごきの。
厚様か。きなさつたに。〔お長〕見通しに
か。〔お長〕イ、エ横座鋪で。お長横座鋪へ行。如
下に立聞。〔お長〕お前は。さつき。來なかつた

じやねえか。〔志厚〕裏の關口に。清兵衛
や。忠公が。居るゆへ。付合に。今迄
居た。〔お長〕又おいかさんを。呼なさつ
たか。〔志厚〕おいかは。脇へ出た。〔お長〕
聞にやるやつさ。〔志厚〕歸りそふもねえ
か。〔お長〕武サだから泊りは。しやせん。
〔志厚〕そんなら。また裏へでも。いつて
來よふ。〔お長〕何サ。かみさんの部やに
でも。寐て居なさりやせ。〔志厚〕それも。
久しい。もんだ。〔お長〕なんでも。まつ
て。居ねえ。お長は出て行。如置は廊
下におら／＼して居。〔如置〕酒
せ。そこに。居なさり。やす。〔如置〕酒
に。酔たから。寐所へ行。すめね願
い男に。逢ふ時は。すかぬ。こちらが。
しこなしに。〔又女來りて。〕〔お長〕お長さん。
あけてもよし。〔お長〕なんだねえ。明
ねえ。〔お長〕セントコノコヒキノ。カ
、チケヲ。トコリキニ。キツタ。〔お長〕
イキマカニ。シキコ、ウクサカンカ

ガ。モコツテ。ク、ルクカ、ラカ。ソ
コレケマカテクト。イキウクテ。ク、
レケ。ナカサカイキ。〔女〕そう云。やす
よ。女障子引立。〔女〕お長さん。鳥渡さ
ねエ。〔お長〕なんだの。お長は出て行。如雷
む。〔お長〕ヲ、能呼事だ。と云て。お長へ入
りて。すめね顔にて居る。お長。如雷まじにこ
心付て。いろく。とつとある。〔お長〕たばこ。
のみなさり。やせんか。にらみ付て居る。
〔お長〕お前の。顔にやア。何かきつく出
來。やしたねエ。是にやア。和國橋の。
實路孝を。付なさりやア。い。〔如雷〕そ
りやア。色男の。する事だ。お長指にて。
きなが。〔お長〕お前ほど。色男なりやア。い
。〔如雷〕何んの事だ。此ふんばりめは。
い。かと。おもつて。喰のめすな。とい
がら。手。〔お中〕あ。い。〔如雷〕はお中さん
とやら。此賢賢女。さげて。くんねエ。
〔お中〕どうなされます。〔如雷〕あんまり。

心いとおもつて。何んのかのと。茶
にし。やアがる。其上野郎の根づけを。
見るやうに。蒲團とおれ斗置て。廊
下斗。そりやアがる。〔お中〕お長さん。
お前もどこへ行なかつた。〔お長〕どつこ
へも。行はし。やせんが。隣座敷で。
煙草のんだ斗さ。〔如雷〕何した。こいつは。
うぬが。い。やうな。事斗。打殺されん
な。硯ぶたをふ。〔お中〕お長さん。お前はあ
つちへ。いきねエ。お長は勝手へ行。女共
とりはだか。〔新五左衛門〕どふだ。〔如雷〕マア
き。ねエ。ぬしも知つて。居る通りだ。
其上。今も。隣で。煙草のんだの。馬
を呑だのと。おれが目をば。こんべい
とうの。附目。太鞍二だと思ふぞふ
人。を附にした。昔口を。何サ。あの子
も。そのやうに。悪敷する。氣もねエ
けれど。〔如雷〕何んだ。うぬらまで。上ゲ
下ゲを。取な。〔お中〕勝手より聞。〔天郎〕どふ

でござります。あの子が。氣にいらざ
ア。外の子でも。お呼なんし。先。氣直
しに。ひとつお上りなんし。〔如雷〕爰の。
どぶ酒が。くらわれるものか。といいな
ら。をふり出ス。〔天郎〕新五左衛門。〔如雷〕留るな。〔
門。やうく。たきとめければ。〔如雷〕留るな。〔
して。むりにかたに。かて。て。連行。〔如雷〕ぬし達
は。どこへ。連て行。此分じや。男が。
た。ねエ。〔天郎〕そんな事いわずと。個
の。ひがしやへでも。行ませふ。〔新五
左衛門〕いやもう直に。歸ろふ。門がや
かましひ。〔如雷〕門が。どふするもんだ。
喰付はしまひ。〔天郎〕それでも。主が。
氣をつかい。なさりやア。〔如雷〕氣を。
つかつても。い。打捨て。おけ。煤掃
には。出る。〔天郎〕まあ。なんでも。お
出なんし。〔漸く。と。だまし。二人。若い者。どふ
も。いけねエ。客だ。〔天郎〕とんだ賑な。客
じや。〔お中〕いゑもふ。いけるのじやご
ざり。やせん。サア二階へ。御出なんし。

お長お中志厚三
人。二階へ行。

お中お前か。何んのかのと。

云なさるから。わたしや。そばで。氣

をもみ。やした。志厚野良賢と。見へ

る。おまつ。玄わたしも。芳町の。俵屋に

も。居やす。新道の。二文字やにも。

三四年居やしたが。あのやうな。若衆

買は。見やせん。志厚ひやうたくれ。

ゆふてくの。揃ひだ。お長お中口 つい

ぞねエ。志厚さん。お長さん。お

休なんし。志厚もちつと。咄しねエ。

お中後。にめエリ。やせう。勝手へ行。お

長原子。お長忠兵衛様清兵衛様はま

だ關口にかエ。志厚今日は。おかると

おりると。一チ座して。梅太夫で。さ

へて。居た。お長お前は。誰を呼なん

した。志厚誰を呼ものだ。お長。志厚がひ

つねり。お長。さあ。いゝねエ。志厚

ア、いおう。お長誰を。呼なんし

た。志厚愛からいつた。大坂女郎さ。

お長あの子は。どこに居るねエ。志厚何

屋に。居るか。お長名は何と云ねエ。

志厚お鶴とか云た。お長何。名を。わ

すれるものだ。などいゝて。色面白きし

座下は。密どうだ。又さしかな。お中

お中アイ昼から出て。居なさりやす。密

又。出ものか。お中お前は又。今まで

どこに。居なさりやした。密表櫓に。

居やした。お中表は。永樂屋にかエ。密

何サあのやうな。變化物屋敷へ行もの

だ。お中何。今じや出やしねエ。密尾

張やで。珍ひものを。呼やした。お中

誰をエ。密このごろ名代。六部女郎

さ。お中おつな子だねエ。そして。つ

れ来はエ。密外の者は。土橋の。鶴や

へ。いつたから。おれ獨りきやした。

を。拾人斗。呼んで。くんねエ。玄と

んだ事云なさる。よし。わたし。が

いゝやうにし。やう。密おまつどんで。

なけりや。ならねエ。おまつ。密お

いせさんは。どうしたねエ。お中あ

子はねエ。七さんと色をしてねエ。かぶ

つて。居なさりやす。女お中

さん。こふ呼にやりやした。利中さん

と。繁さんと梅太夫さんが。来なさり。

やす。密よし。梅太夫。豊丸さん。

こつちだ。こりや七兵衛さんお出な

さりました。利中。座敷へ行と。密利中す

まふと。ならこう。密太夫。かない

。かないません。めく。らに。

密とんだ事だ。茶釜。梅太夫。茶

釜。が。またりの。大臣。密太夫

大臣。大臣の所へ毛がはへた。和

はへた。はへたとは物くさ太郎が

出ます所が中村の。仲藏。大勢よからう。梅太夫△皆様の。御ひきにて。一チ郎別當と。たいにんしたる。左衛門祐經。大勢いよ。お中秀鶴さんとは。おそろしい。密繁さん一ツ頼やす。利中私が。出ませう。△藤兵衛さんがお花さん。／＼と。云なさつても。お花さんは。やです／＼と。云なされます。大勢きつし。密聞か。／＼エヘン。△こいつは。／＼。これで。やばなら。しような事が。ねエ。梅太夫旦那の。又八は。利中さんのよか妻ひはエ。△もし七兵衛さん。誰ぞお呼なんし。密今夜は。さへ一ト通りにしやう。利中さへ一ト通りの名方。ホ、ホア。△呼やすよ。梅太夫お呼なさるのさ。梅太夫呼ねエ。／＼。密さわざねエ。／＼。女は女郎利中。豊丸。梅太夫。梅太夫。連ぶしにて。うとよ。△とうなすほどの血のなみだ。落て。かばちやにやアなり

やしよまい。キタきた。／＼きたさのさの。／＼。謙岐の金びら。女郎来り障。お中さん。お中サア。／＼。女郎七兵衛酒を。女郎ちと御上ゲ申や。せう。密まづ。／＼。利中。おこうさんには。まだ私は。間違て。女郎ハイ御頼申やす。利中。是は。／＼。密利中さん。一ツ拳。まいろふ。利中サアめエリ。やせう。密ゴウサイ。利ロマデエ。密バマ。利ロマとつてエ。密キウヤア。利トウライとつてエ。密かなわぬ。／＼。お長小便に眠なれば。そつと見ければ。馴染の七兵衛なり。名代の女郎居るゆへに。客は知らぬふりにて。座敷へ。お長。おゆるしなんし。利中。お長さん。のみねエ。おこう。煙脚のみ付て。お長にやる。客盃を持て居ければ。密一ツ。あげやうか。お長ハイ。梅太夫お長さん。中川では。ひど目目に合せ。なさつたねエ。梅太夫何拳か。お長煙脚のねをなぐら。お長。何。そうもねエのさ。お中。きせるをふりあげて。お長をたぐまねして。お中。お長なでの。き

ん。／＼か。にくいの。お長イナイつてめエりや。しやう。あなだ。ゆるりと。おこうさん。お中さん。皆様。これに。お長は。利中。問ひませう。梅太夫。とわし床へ行。利中。問ひませう。梅太夫。とわしやれ。／＼。利中。刀は。藤政宗。利小袖は。藤羽二重。利羽織は。藤ちりめん。利男は。藤權左衛門。利女は。藤權助。ハアまた。まただ。利中。どふだ。凄ものか。梅太夫。變化するで。まいろふ。利中。來給へ。／＼。密。ばけるは。／＼。利茶釜は。密やくわんと。利息子は。密とつさま。利かばちやは。利とうなす。利娘は。密か。／＼さん。利中。ハアおそろ。／＼。梅太夫。どふだ。／＼。鐵なる。ゴン。／＼。密。明るそふな。歸ふ。／＼。女郎お中口を。梅太夫。歸ろ。びよ。／＼。三びよ。／＼。豊丸。三味線引掛。梅太夫。△六びよ。七びよ。太夫。利中。梅太夫。△六びよ。七びよ。八びよ。／＼。九のびよ。／＼。十び

右の如く。カキケコの。五音の字を付云也。譬ば。客と云時は。キキヤカ

し女に。譬とんだ。茶釜がやくわんと。變化たと云也。

○獨りでころんて。啼と云辯

是は。丑の類見世。狂言に。坂田佐十郎。云し事也。是を。今專云は。女藝者。又茶や船宿の。女房娘。女郎の目を。忍びて。ころぶと云。通言有。なくと云は。泪を出す。いふ事にや。くわしくあらわす時は。下驛りとなる。由而りやくして。あらましを。記す。

一チ字置に。付る也。知れざる事を。云時。はやく此事を。考べし。又此通し言葉も。口付て云時は。いかやうにも。はやくいわるゝ也。諸人知る所なれども。知らざるものゝ便にと。爰にあらわす。

○とんだ茶釜の辯

是は谷中。笠森に有し。おせんが。美しきを見て。類と。類と。見合。能女と。譽られず。茶釜に。なぞらへて。とんだ。茶釜と。云出したると也。

○同薬鑑と變化る辯

おせん。引のいて後。山下に。水茶や出る。又此美

夢中散人

寢言先生著



三聖
三諺

文車之文

全
いふ人の精細なるもの
とて
追刻